

ウォーター枕スピーカー

JF-WPS シリーズ /JF-WPSBT シリーズ ユーザーズガイド

この度は、弊社製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。
ご利用の前に、本書に記載されている内容をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

- 製品の使用および外観は予告なく変更することがあります。
- 本書の内容は予告なく変更することがあります。
- 本書の著作権は株式会社フォースメディアにあります。
- 本書の一部または全部を無断で使用・複製・転載することを禁止します。
- 本書に掲載されている会社名や製品名は、各社の商標および登録商標であるものがあります。
- 製品の仕様により発生した損害にはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。

株式会社フォースメディア

東京都品川区東五反田1-13-12 いちご五反田ビル4F

Copyright (C) 2017 Force Media, Inc.

- 取扱説明書をよくお読みのうえ正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上の注意」を必ずお読みください。
- 本書は保証書を兼ねております。「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、大切に保管してください。

安全上の注意

この「安全上の注意」には、本製品をご使用になるお客様や他の人々の身体への危害や財産への損害を未然に防止するために、守って頂きたい事項を以下の三つ区分に分けて記載してあります。

	危険 「死亡する」または「重傷を負う」ことに直結する危険性が想定されます。
	警告 「死亡する」または「重傷を負う」ことに繋がる可能性が想定されます。
	注意 「障害を負う」または「物理的損害が発生する」ことが想定されます。

「重傷」とは、けが・やけど・感電・中毒などで後遺症をもたらすもの、または治療に入院や長期の通院を要するものを指します。

「障害」とは、けが・やけど・感電などで治療に入院や長期の通院を要さないものを指します。

「物理的損害」とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる損害を指します。

◀免責事項について▶

- ・指定された用途以外の使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- ・故意または過失を問わずお客様および第三者の誤用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- ・天災または人災を問わず異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- ・本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断、記録内容の変化・消失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。
- ・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

◀図記号の説明▶

	禁止：行ってはいけない内容を示しています。
	強制：必ず実行して頂く内容を示しています。

危険

-  本製品の分解や改造および、お客様ご自身で修理をしないでください。感電、故障、火災の原因になります。
-  発煙、焦げ臭い匂いの発生など異常を確認したら、直ちに本体の使用を中止してください。そのまま使用を続けると、感電、故障、火災の原因になります。
-  本製品を高温になる場所や熱器具の近くで使用したり、設置しないでください。感電、故障、火災、変形の原因になります。
-  本製品および、接続しているケーブルの上に重いものを乗せないでください。故障や漏電、火災の原因になります。
-  濡れた手で本製品やコードに触れないでください。火災や感電の原因になります。
-  本製品を火の中に入れてください。爆発したり、破裂する危険があります。
-  お子様やむやみに手を触れないようご注意ください。

警告

-  落下させたり、投げつけたりするなど、強い衝撃を与えることはしないでください。破損の原因となる恐れがあります。
-  本製品の内部に水などの液体が入った場合は、すぐに使用を中止してください。
-  本製品を乳幼児の手の届く場所に放置しないでください。飲み込んで窒息するなど、思わぬ事故や障害の原因になる恐れがあります。
-  発煙、焦げ臭い匂いの発生などの異常状態のまま使用を続けると、感電、火災の原因になります。ただちに本製品の使用を中止して下さい。

注意

-  直射日光などで高温になる場所、極端に低温になる場所、湿気やホコリの多い場所に保管しないでください。変形や故障の原因になる恐れがあります。
-  本製品が汚れたときは、柔らかい布などで乾拭きしてください。家庭用洗剤、ベンジン、アルコールなどの用材は使用しないでください。変色、変形の原因になる恐れがあります。
-  本製品の状態に異常が発生していないかどうか、定期的に確認して下さい。
-  破損、変形、劣化した場合は使用しないでください。
-  ケーブルを抜く際は、ケーブルの根元（コネクタ部）を持ち真っすぐに抜いてください。ケーブルを引っ張って抜かないでください。
-  ケーブルを差し込む際は、向きに注意し真っすぐに挿入してください。
-  必ず浸水チェック（紙などを使用）をして本体に破損が無い事を確認した上でご利用ください。浸水により使用機器が故障、破損する危険があります。

主な特長

- ネックピロー、防水ケース、スピーカーをひとつにまとめた新感覚のスピーカー
- 空気で膨らませるネックピローに防水ケースとスピーカーを内蔵し、水濡れが気になる場所でもスマートフォン等の音楽が楽しめます。
- スピーカーを耳の近くに配置し、耳を塞がないので、周囲の音を聞きつつ音楽を楽しめます。
- 付属（JF-WSPBTシリーズ）のワイヤレスレシーバーを使えば、スマートフォンを操作しながら、音楽を聞いたり、ゲームをすることができます。※
- 本体の色はピンク、ホワイト、イエローの3色をラインナップ。お好みに合わせてお選びください。

※水場で使う場合、防水対応の機種または、別途、防水ケースが必要です。

各部名称と役割

スピーカー
音楽を再生します。

防水ケース
スマートフォン等を入れます。

空気出し入れ口
ネックピローに空気を入れたり抜いたりします。

3.5mm ステレオミニプラグ
(防水ケース内)
イヤホンジャックに接続します。

オーディオ延長ケーブル (約400mm)
本体の3.5mmステレオミニプラグを延長して使用できます。



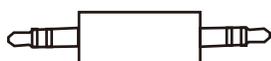
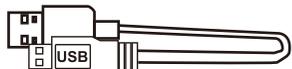
JF-WSPBTシリーズには、以下も同梱されています。

ワイヤレスレシーバー
スマートフォン等と接続して
ワイヤレスで音楽を受信します。

接続用3.5mmステレオプラグ
ウォーター枕スピーカー以外のコンポなどの
入力端子とワイヤレスレシーバーを接続する
ことで、コンポからスマホの音楽をワイヤレス
で聞くことができます。



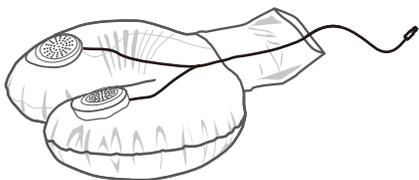
充電用USBケーブル
ワイヤレスレシーバーを充電します。



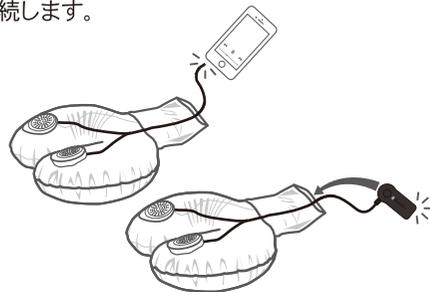
使用方法

⚠ 使用前に必ず、必ず紙など本体の防水ケース内に入れて、水に浸し、紙が濡れないことを確認(浸水しないことを確認)してからご使用ください。浸水により使用機器が故障、破損する危険があります。

1
ネックピローに空気を半分ぐらい入れます。
※空気を入れすぎるとスマートフォン等を
ケースに入れられなくなります。



2
3.5ステレオミニプラグをスマートフォン等に
接続します。

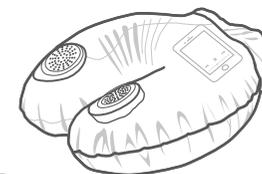


使用方法 続き

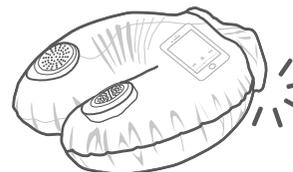
3
スマートフォン等で音楽を再生します。



4
スマートフォン等を防水ケースに入れます。



5
防水ケースのフタのチャックを閉め、
しっかりと折り曲げてから面テープで貼り
付けます。



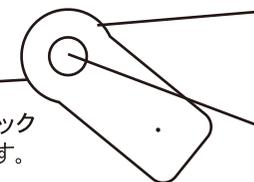
6
最後に空気をお好みの硬さになるように
入れれば、準備完成です。

⚠ チャックを端までしっかり締まっていること、折り曲げてから面テープで貼り付けていることを必ず確認してください。不十分だと浸水する場合があります。

ワイヤレスレシーバーを使用する (JF-WSPBTシリーズのみ)

MicroUSB 充電ポート
付属の充電用USBケーブルを接続して
本体を充電します。

3.5mm ステレオミニジャック
受信した音声を出力します。



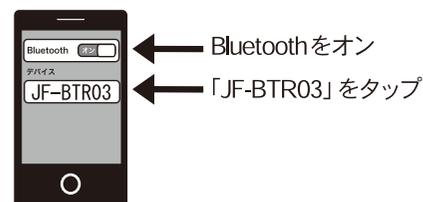
ON/OFF ボタン (LED ランプ)
電源のON/OFF をします。
LED ランプは現在の状態を表示します。

充電する
付属のUSBケーブルと接続するとLEDが点灯して充電が開始されます。
完了するとLEDが消灯します。

電源のON
ON/OFF ボタンを長押し (約3秒) するとLEDが点滅を開始して電源が入ります。

電源のOFF
電源が入っている状態でON/OFF ボタンを長押し (約5秒) するとLEDが消灯して電源が切れます。

ペアリングする
初めて使うとき、スマートフォン等とペアリングする必要があります。
※2回目以降は自動的に接続するので、この操作は必要ありません。
1. (電源OFFの状態) ON/OFF スイッチを長押し (約5秒) するとLEDが赤と青で交互に点滅します。
2. スマートフォン等のBluetooth 検索画面で「JF-BTR03」を探して接続します。



3. (接続が完了したらスマートフォン等の音声が3.5mmステレオミニジャックから出力されます。使用方法手順2で、スマートフォンの代わりにワイヤレスレシーバーを入れればワイヤレスで使用可能です。

⚠ ワイヤレスで使用する場合、接続している機器も防水対応している必要があります。